

アグリ筑西

2021 6月号



梅雨の季節になりました。蒸し暑い日も多いので熱中症には十分注意しましょう。

県西農林事務所 経営・普及部門
 (筑西地域農業改良普及センター)
 筑西地域農業改良推進協議会 発行
 Tel:0296(24)9206
 Fax:0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス! ↑



～ サツマイモ基腐病にご注意ください ～

サツマイモ基腐病が、九州・沖縄地方を中心に発生拡大しています。現在のところ、県内での発生は確認されていませんが、発生すると、防除が難しく、被害が拡大する恐れがあるため、侵入防止と早期発見に努めましょう。以下に、侵入防止対策をまとめました。

【侵入防止対策】

- ・ 発生地域から持ち込まれたコンテナ等は、洗浄、消毒してから使用し、作物残さや土をほ場に持ち込まないようにしてください。
- ・ 発生地域から、種イモや苗を持ち込まないでください。
- ・ 自分で採苗する場合は地際から、5cm以上の位置で採取してください。
- ・ 苗消毒は、採苗当日に行い、薬剤は使用当日に調整したものを用いてください。
- ・ 種イモは、症状が出ていなくても感染の可能性があります。苗の消毒を行うことで、発病リスクを軽減させることができるので、必ず実施し、購入苗も未消毒の場合は必ず消毒してください。



写真出典：農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C)
 令和2年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策より」

さらに詳しい情報が知りたい方は、普及センターへお問い合わせください(TEL:0296-24-9214)。

小麦の成熟期予測～適期に収穫しましょう～

今年の小麦の生育は、2月の降雨以降、土壌水分が適湿になり、気温の高温傾向と相まって生育が進み、出穂期は平年より1週間程度早まりました。平均気温(実測値および平年値)より予測した「さとのそら」の成熟期は表のとおりです。但し、出穂期以降、生育ペースは鈍化しており、出穂期の早さほどには成熟期は早まらない見込みです。

小麦の成熟期は、出穂期後48～50日が目安で、穂首が黄化し、穂軸や粒から緑が抜け、粒には爪のあとが付き、ほぼロウくらいの硬さになった頃です(写真)。コンバイン収穫は、成熟期の2～3日後から5日間、穀粒水分30%以下の状態が適期です。穀粒水分が高くなる降雨後や早朝は、収穫を避けましょう。



表1「さとのそら」の成熟期予測(令和3年5月18日現在)

播種期	11/1	11/11	11/21	12/1	12/11	12/21	12/31
成熟期予想	5/31	5/31	5/31	6/1	6/2	6/3	6/3

注) 成熟期は下館アメダスの平均気温(実測値および平年値)より予測しています。

今後の気象推移などにより5日程度前後することがあります。



農薬 ～予防剤の散布を～（梅雨前の注意喚起）～

みなさん、梅雨といえば、雨ですよ。雨は恵の雨と言われて、ほ場の灌水を助けてくれたり、乾燥を防いでくれる反面、植物の病害の発生を助長します。植物は、雨が降って湿度があがることで病気になったり、雨による泥はねによっても病気に感染します。また、多雨量の降雨による湿害は、農家の頭を悩ませます。雨が降る前から予防剤を散布するように心掛け、病害の発生に備えましょう。予防剤は、雨が降らない時期でも病害がでる前に、散布しなければ意味がありません。

早め早めの行動があなたの作物を守ります。

⚠️ ～ 高温注意報（梅雨明けの注意喚起）～ ⚠️

みなさん、梅雨明け後や日々の高温対策は大丈夫でしょうか？年々、日本の気温は上昇しており、果実や葉の日焼け、異常花の発生、着色不良、植物体のしおれ、生育の停滞と高温による障害が多くなっています。

対策としては、換気口を大きくあけたり（虫の飛込に注意）、遮光ネットやサーキュレーター等の設置、畝へのシルバーマルチや白マルチの設置、通路への藁やシートの設置があります。高温対策をして植物の健全な生育をサポートしましょう。

🌾 ～ お米を生産している農家の皆様へ～ 🌾

国の発表では、令和3年度米の価格を維持するためには令和2年度比で全国で約30万トンという、過去最大の転換が必要とされています。

すでに、主食用として作付けたコシヒカリ等の主食用品種でも飼料用米として出荷することが可能です。さらに、地域協議会や市町村で飼料用米への助成措置を設けている場合は、さらなる助成を受けることができます。

経営所得安定対策の制度を活用し、主食用米からの転換の検討をお願いします。

茨城県農業再生協議会のホームページでは、水田農業経営に関する各種情報を掲載しているほか、飼料用米を作付けた場合の収入試算等もできるので、ぜひご利用ください。

コマツナの移植栽培と冬季ウォーターカーテン + マルチ利用による生産性の向上

桜川市でカット野菜の原料としてコマツナを栽培する株式会社ヤツカの勝俣良氏は、昨年からパイプハウスの回転率を上げるため、通常、ハウス内に直接播種するところを育苗した苗を移植する栽培方式に変更し、冬季はハウス内の夜温を確保するウォーターカーテンを導入するとともに、地温を確保するマルチ栽培に取り組んでいます。

この取組により、収穫回数がこれまでの5.5回/年のところ、8回/年まで飛躍的に向上させることができ、売上げを伸ばしています。

また、マルチ栽培により除草剤散布が不要となり、1作の栽培期間が短縮されたことで病害虫防除回数も減らすことができ、コスト削減も図られました。

新たな技術を取り入れ経営発展を目指しており、新規就農者の研修受け入れや農福連携など地域農業の振興にも意欲的です。



普及員のひとりごと～次田和則～

泉西の気質はおおらかだよと言われて赴任してきました。それは、車を運転していても一目瞭然。また、遠くの山に沈む夕日が美しく穏やかな気持ちになれます。前任地は笠間普及センター。栗がとても美味しかった。こちらは小玉スイカがとても美味しい。梨も楽しみ。事務所から見る水田は整っていてもとても素晴らしい。